

中下流部の課題35. (河川利用)

現状

下流部では、高水敷の約8割が運動場、公園・緑地としてスポーツや散策に利用されており、釣り等を合わせて、河川利用者は年間約157万人と推定される。水面の特徴的な利用としては、釣りの他、舟下りや船明ダム湖のボート利用が挙げられる。

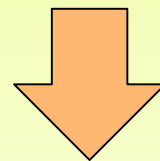
また、下流部の一雲済川合流点から下流が平成14年に磐田市により「水辺の楽校」に登録され、地元小学校、自治会と市、県、河川管理者による協議会が設けられ、安全かつ充実した水辺活動のための計画が作成され、整備が進められている。

説明項目

- ①高水敷の占用状況
- ②高水敷の利用
- ③水面・水辺利用
- ④水辺の楽校いわた(磐田市)
- ⑤天竜川水辺の楽校いわた推進協議会

部会員からの意見

(鈴木英) 鹿島橋下流の浜北市上島や浜松市等の高水敷で、未整備箇所が沢山ある。公園整備をすれば利用が増えると思われる。

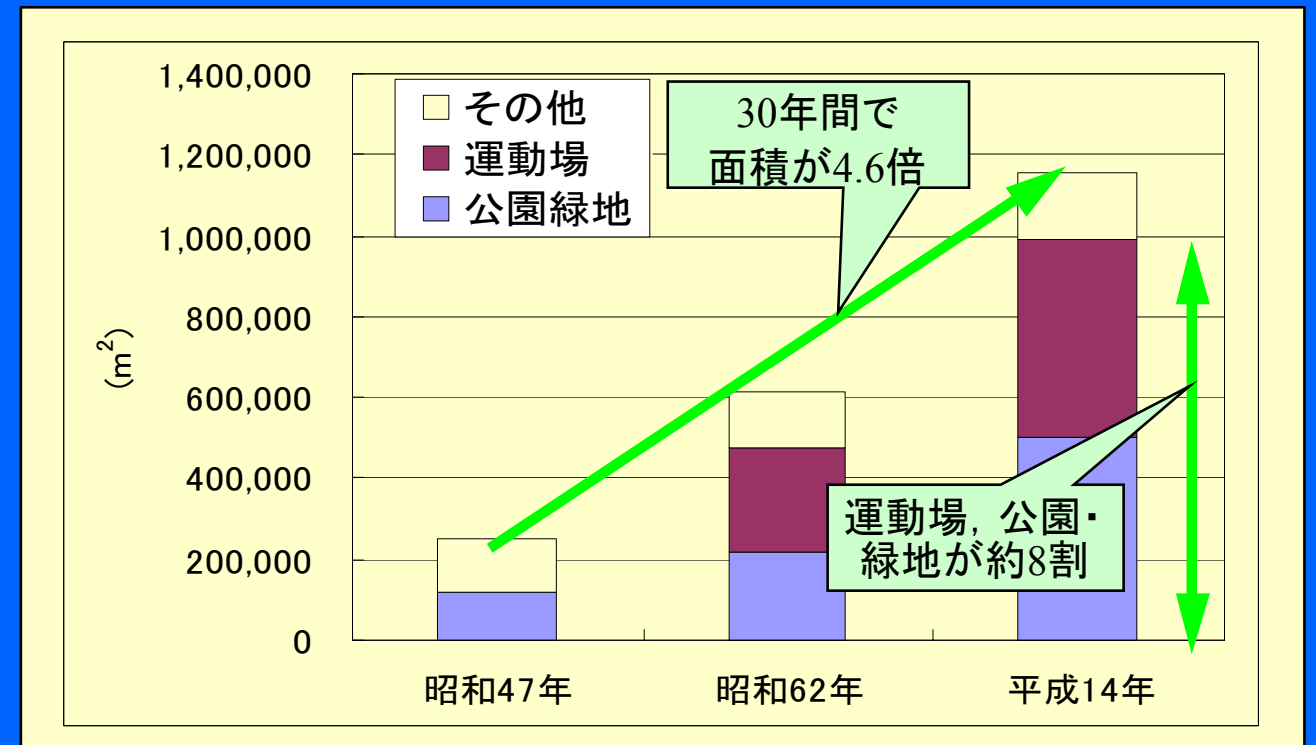


天竜川中下流部の課題

- ・人と河川との豊かなふれあいの確保
- ・河川・水辺・高水敷の利用、川とのふれあいの場の維持形成
- ・河川・水辺・高水敷の利用、川とのふれあいの場の維持形成

中下流部の課題35. (河川利用)

① 高水敷の占用状況



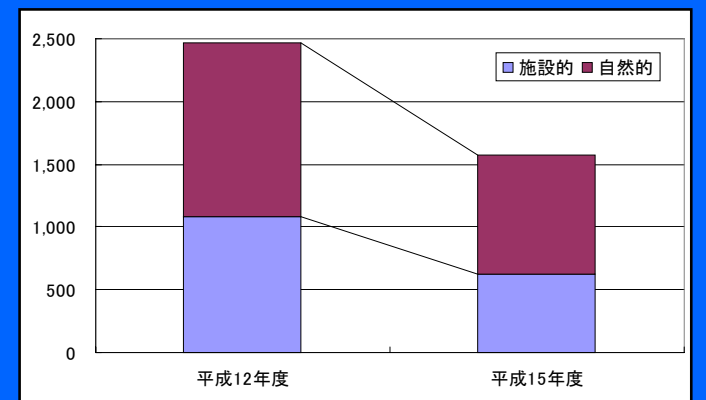
高水敷の占用状況の変化

② 高水敷の利用

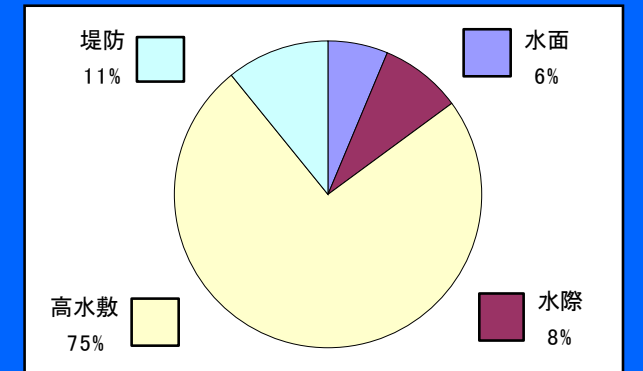
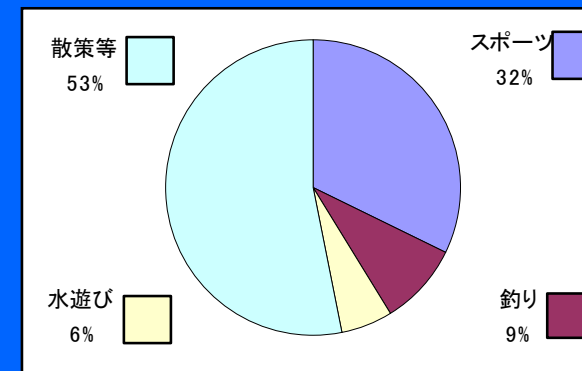
天竜川の年間推定利用者数は、平成12年は約246万人、平成15年は約157万人\*

利用形態は散策・スポーツの順で、利用場所は高水敷が多くを占める

\*平成15年は天候が悪かったことが推定利用者減少の主要因と推定される



年間推定利用者数の変化



河川の利用状況 利用形態(左)と利用場所(右)

### ③ 水面・水辺利用



### ④ 水辺の楽校いわた (磐田市)

「子供達が自然と出会える安全な水辺の整備・地域づくり」をテーマに、H14. 1に「水辺の楽校いわた」を水辺の楽校プロジェクトに登録

- 水辺の自然環境を保全・創出
- 水辺へのアクセスの整備
- 推進協議会 (学校、PTA、市民団体など) の設立



### ⑤ 天竜川水辺の楽校いわた推進協議会

#### 天竜川水辺の楽校いわた推進協議会

天竜川水辺の楽校いわた推進協議会では、地域とともに子供たちの水辺の遊びを支える体制を作り、自然と出会える安全な水辺の整備を進めることを目的としている

地域住民	岩田地区 自治会 連合会
	岩田地区 子供会 (小学生)
学校・PTA	岩田小学校
	野外活動に詳しい教員 (市内)
学識者	日本鳥類保護連盟
企業	天竜川漁協協同組合 磐田支部
	磐田さぎさか工業団地協同組合
その他	こどもエコクラブサポーター
行政関係	浜松河川国道事務所
	袋井土木事務所
	磐田市長



## 中下流部の課題36. (河川利用)

### 現 状

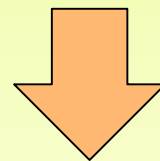
下流部では、ほぼ全川で堤防天端が道路として利用されており、交通量は多いところで平日12時間で7,000台であるが、横断歩道は設置されていないため、高水敷の運動場や公園の利用者の道路の横断に危険な場合も見られる。

### 説明項目

- ①堤防の道路利用
- ②堤内地から高水敷への安全な移動

### 部会員からの意見

- (鈴木鉄) 7,000台(12時間)の交通があるが、道幅は狭く、歩行者が事故に遭う危険のある道幅だと思う。
- (鈴木鉄) 住宅密集地付近では、堤防を散歩するなど利用する人も多いことから、歩行者の危険防止のための対策が必要。
- (鈴木鉄) 高水敷に公園のあるところには、(公園利用者の安全のため)堤防道路に横断歩道が必要。



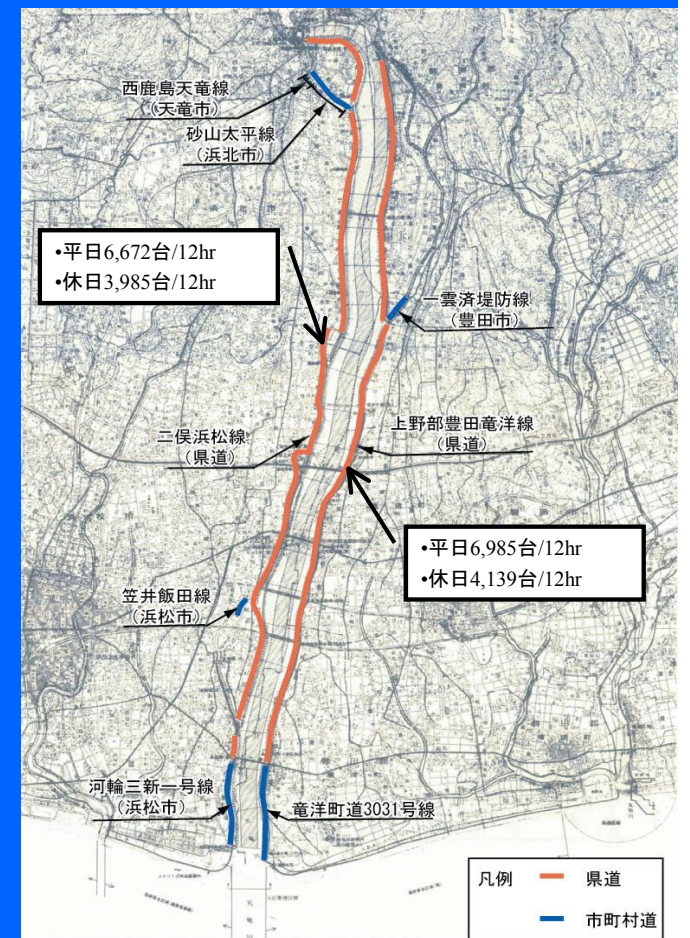
### 天竜川中下流部の課題

- ・ 人と河川との豊かなふれあいの確保
- ・ 下流部における堤内地から高水敷の公園や運動場への安全な移動
- ・ 下流部における堤内地から高水敷の公園や運動場への安全な移動

## 中下流部の課題36. (河川利用)

### ① 堤防の道路利用

- 堤防天端はほぼ全川道路として利用(兼用道路)  
 県道:約42km(静岡県)  
 市町道:約8km(浜松市、竜洋町など)
- 交通量は平日12時間で7,000台の箇所もある  
 \*AM7:00~PM7:00までの12時間
- 横断歩道は設置されていない

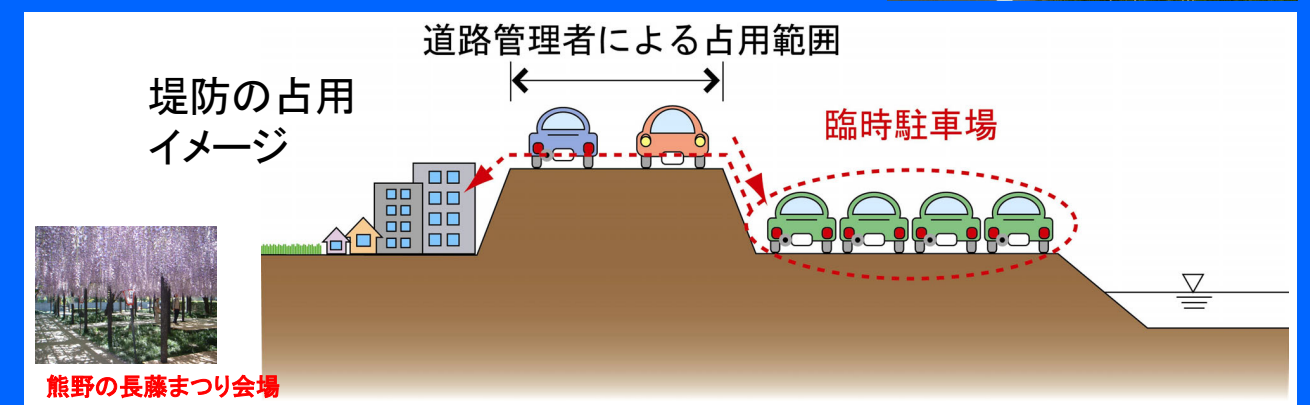


兼用道路区域図

### ② 堤内地から高水敷への安全な移動

堤防天端は、道路として占有されており、道路管理者(県及び市町)が管轄している。

イベント開催時における地元住民による道路横断時の安全確保  
 (池田地区 H16.4.29撮影)



## 中下流部の課題37. (河川利用)

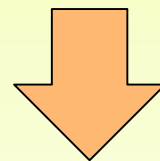
### 現 状

下流部では、一雲済川合流点付近の天竜川を「水辺の楽校いわた」として磐田市が登録し、地元小学校、自治会、市、県、河川管理者が連携し水辺活動のための計画が作成され、現在これに基づき整備が進められている。

### 説明項目

#### ①水辺の楽校いわた(磐田市)

### 部会員からの意見



### 天竜川中下流部の課題

#### ・地域との連携

- ・河川管理者、地元自治体、河川利用者の連携による河川の整備、利用、管理
- ・河川管理者、地元自治体、河川利用者の連携による河川の整備、利用、管理

## 中下流部の課題37. (河川利用)

### ① 水辺の楽校いわた(磐田市)

「子供達が自然と出会える安全な水辺の整備・地域づくり」をテーマに、H14.1に「水辺の楽校いわた」を水辺の楽校プロジェクトに登録

- 水辺の自然環境を保全・創出
- 水辺へのアクセスの整備
- 推進協議会(学校、PTA、市民団体など)の設立



位置図



現状

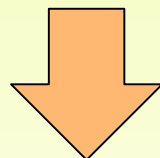
天竜川には、舟運の歴史や東大塚天竜川河床遺跡、諏訪神社の流着神伝説等、川とのかかわりの中で生まれた文化や伝承が多く残る。また、流木は「山の神様からの贈り物」といわれ競って拾われ燃料に使うといった生活様式があったといわれる。地域の連携を進める上では、このような天竜川にまつわる人々の暮らしの歴史や現状を理解することは重要である。現在は、天竜川の自然、暮らしや文化をまとめた冊子などの発行や、天竜川にまつわる資料を公開する「天竜川文庫」への資料提供、ホームページでの天竜川に関わる情報発信などに努めている。

説明項目

- ①天竜の歴史
- ②天竜川文庫
- ③埋蔵文化財

部会員からの意見

(小杉)川と人々とのかかわりの歴史についても注目してもらいたい。子供達が川を知るには、川の歴史と川と住民とのかかわりを知らなくてはならない。  
 (小杉)舟運や七夕流しなど天竜川に関する人々の歴史や文化がなくなってしまった。

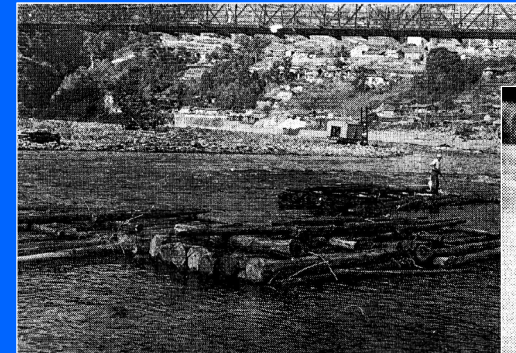


天竜川中下流部の課題

- ・地域との連携
- ・天竜川の歴史や現状の理解のための情報発信
- ・天竜川の歴史や現状の理解のための情報発信

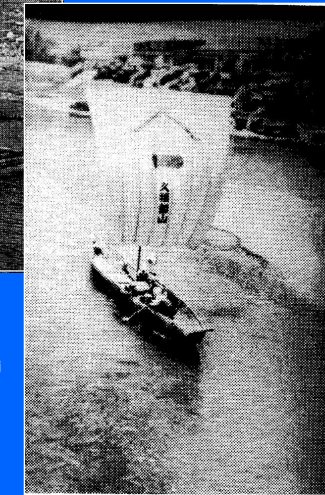
# ① 天竜の歴史

天竜川には、舟運の歴史や東大塚天竜川河床遺跡、諏訪神社の流着神伝説等、川とのかかわりの中で生まれた文化や伝承が数多く残る



かつての舟運の様子

語りつく天竜川 天竜川の水運 日下部新一より

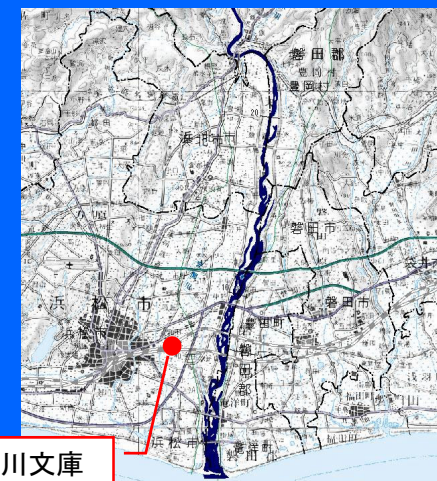


①	諏訪神社
②	諏訪神社
③	諏訪神社
④	諏訪神社
⑤	諏訪神社
⑥	八幡神社
⑦	高根神社
⑧	天王社
⑨	小仏
⑩	林昌寺薬師仏
⑪	粒見堂聖観音
⑫	願成寺延命地藏
⑬	徳源庵聖観音菩薩

流着神伝説の伝わる神社等

# ② 天竜川文庫

天竜川にまつわる幅広い資料をそろえた「天竜文庫」が完成し、一般への資料貸し出しサービスを開始



天竜川文庫

## 天竜川の資料一堂に

浜松に「文庫」完成

### 書籍や写真900点収集

浜松市榑松町の中部建設協会浜松支所 皇川光吉支所長がこのほど、天竜川にまつわる幅広い資料をそろえたスペース「天竜川文庫」を建物内に完成させた。

これに合わせて、一般への資料貸し出しサービスを毎月から本格的に始めた。早川支所長は「天竜川の所有物のほか、職員個人のボランティアで集めた資料は旧紙、地質、生

竜川の歴史や現状を市民が地元の家などを持って貴重な文庫を譲り受けるとして集めた。同文庫の開設に向けて、同支所は平成七年に組織を作り取り組ま

てきた。貸し出しサービスには同支所OBのボランティアで一人が交代で担当する。問い合わせは同支所へ053(455)5050へ。

提供 静岡新聞社 H16.1.10 朝刊



### ③ 埋蔵文化財

#### ○ 中下流部の文化財の包蔵地

中下流部の河道内における埋蔵文化財の包蔵地は、東大塚天竜川河床遺跡のみが確認されている。

埋蔵文化包蔵地名	東大塚天竜川河床遺跡
所在地住所	竜洋町豊岡字西堀地先
周知面積	120m <sup>2</sup>
遺跡の種類	散布地 集落跡 その他の遺跡
現状	水田 その他(河川敷)
文化財の年代	古墳 奈良 平安 中世

出典:『静岡県文化財地図Ⅱ 一焼津市以西-』

1989年 静岡県教育委員会に加筆・修正

遺跡位置図

